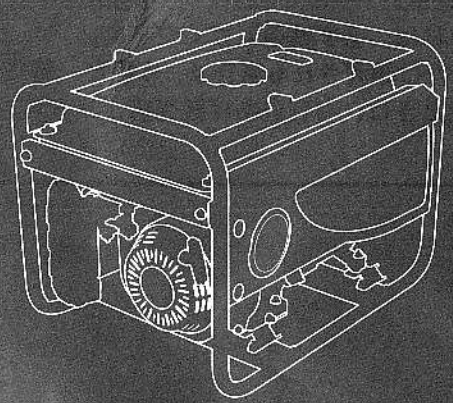
HONDA
The Power of Dreams

30Z15602
00X30-Z15-6020

CX2・H2
Ⓢ ⒽⒸ 1000.2010.11
©2004 本田技研工業株式会社
Printed in China

HONDA
汎用製品

携帯発電機
EBR2300CX
取扱説明書



eSPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

Honda発電機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店またはサービス店**にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

・運転をするときには、必ず携帯してください。
・発電機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげ販売店、サービス店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた発電機を安全かつ能率的に使用する手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ……4
安全ラベル ……8

各部の名称と取扱いをおぼえましょう……10
エンジン　スイッチ ……11
オイル　アラート機構 ……11
始動グリップ ……11
燃料コック　レバー ……12
チョーク　レバー ……12
ブレーカ ……13
交流コンセント ……13
電圧計 ……14
アース端子 ……14

運転をする前に点検しましょう……15
燃料の点検 ……15
エンジン　オイルの点検 ……17
エア　クリーナ(空気清浄器)の点検 ……18
発電機周辺の点検 ……20

発電機のかけかた……21

電気の取出しかた……23
交流 ……23

発電機のとめかた……25

定期点検を行いましょう……27
定期点検表 ……27

点検・整備のしかた……28
エンジン　オイルの交換 ……28
エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃 ……30
点火プラグの点検・調整・交換 ……33
燃料ろ過カップの清掃 ……35

常時使用しない場合には……37

運搬する場合には……38

長期間使用しないときの手入れ……39

修理を依頼する前の簡単な点検……41

主要諸元……42

交流電源　使用できる範囲……43

配線図……44

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- この発電機は車載用として製造はしていませんので車載したまま使用しないでください。
- 発電機を間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- エンジンを始動する前に必ず「運転をする前に点検しましょう」(15~20頁)を行ってください。事故や本機、使用器具の故障の防止になります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して発電機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気は風通しのよい場所に向けてください。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や、動植物などにも十分ご注意ください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや換気の悪い場所では使用しないでください。
  換気の悪い場所は、有害な一酸化炭素がたまることによってガス中毒の危険があります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止し換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり、炎や、火花などの火気を近づけないでください。

警告

- 燃料は、こぼさないように注意してください。燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
  ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
- 発電機は平坦で堅い場所に置いて使用してください。
  小石、土、砂利などで凸凹していたり、軟かい所や傾斜地では使用しないでください。発電機が転倒し、本機や使用器具の故障を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 発電機の改造は絶対にしないでください。
  本機や使用器具が故障するだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- カバー類を外したまま使用しないでください。手や足をはさんだり思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。
  雨や水で濡れた発電機や使用器具を使用したり、また濡れた手で操作すると感電することがあり危険です。
- 電力会社からの電気配線には絶対接続しないでください。
  本機や使用器具を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。
- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

警告

●使用中は

- 使用中は建物およびその他の設備から１ｍ以上本機を離してください。
  発電機から出る排気ガスは熱くなります。まわりに危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)や燃えやすいもの(わらくず、紙くずなど)は近付けないでください。また発電機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりしないでください。本機や使用器具に損傷を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 使用中や停止直後の発電機はエンジン本体やマフラなどが非常に熱くなっています。エンジン本体やマフラなどに触れたり、物をのせないでください。やけどなどの傷害や火災事故を引き起こすおそれがあります。
- 使用中は発電機を傾斜させたり、移動しないでください。
  燃料漏れや振動による自然移動、転倒による本機や使用器具の損傷、故障の原因など思わぬ事故の可能性があります。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス店にお申しつけください。
- 発電機から離れるときは、必ずエンジンを止め、コンセントから使用器具のプラグを外してください。
  いたずらなどで使用器具が動きだし、思わぬ事故を起こす可能性があります。

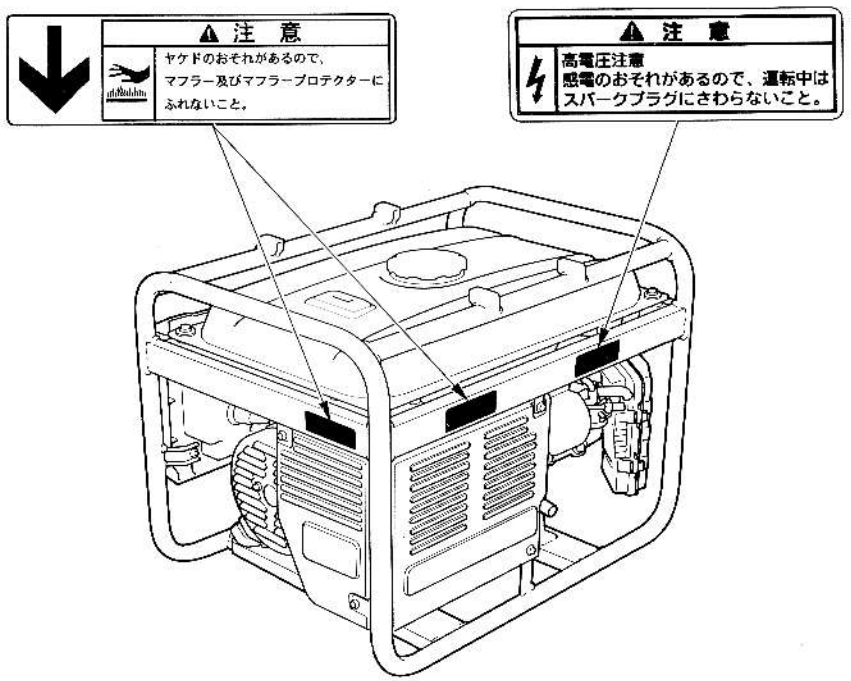
警告

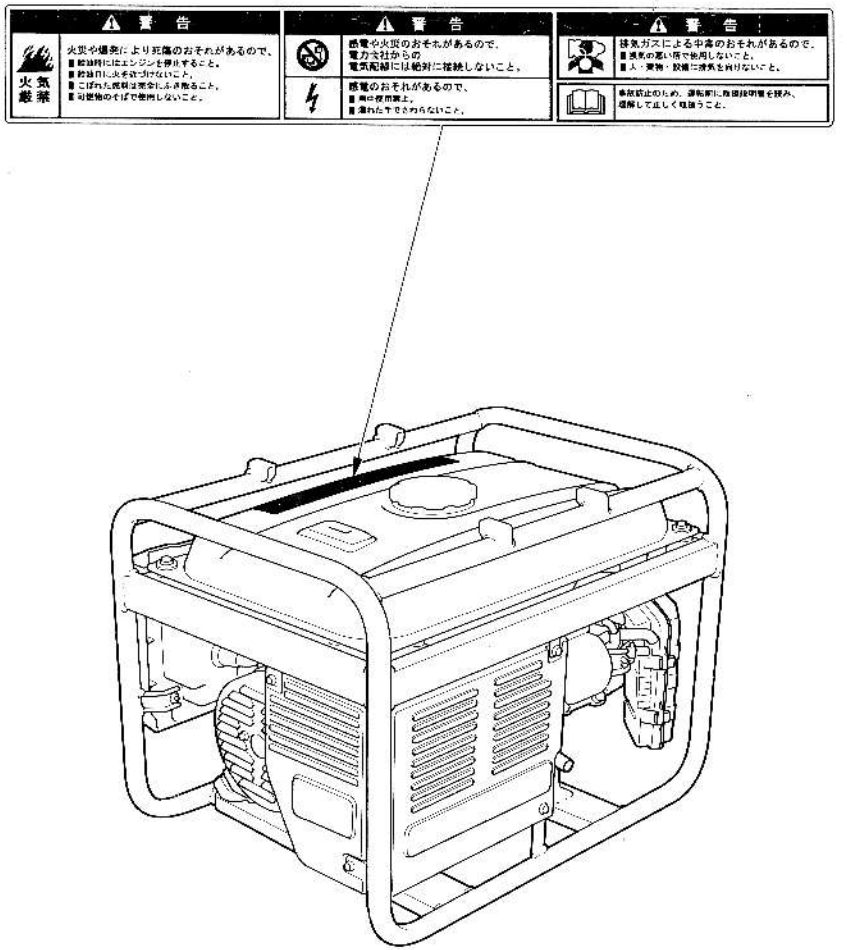
●使い終ったら

- 発電機を水洗いしないでください。
  電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。
- 長期保管前には、燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜き取り、発電機を火気や、湿気、凍結のおそれのない所に保管してください。抜き取った燃料は火災や爆発の危険性がありますので適切な処理をしてください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを“停止”の位置にし、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

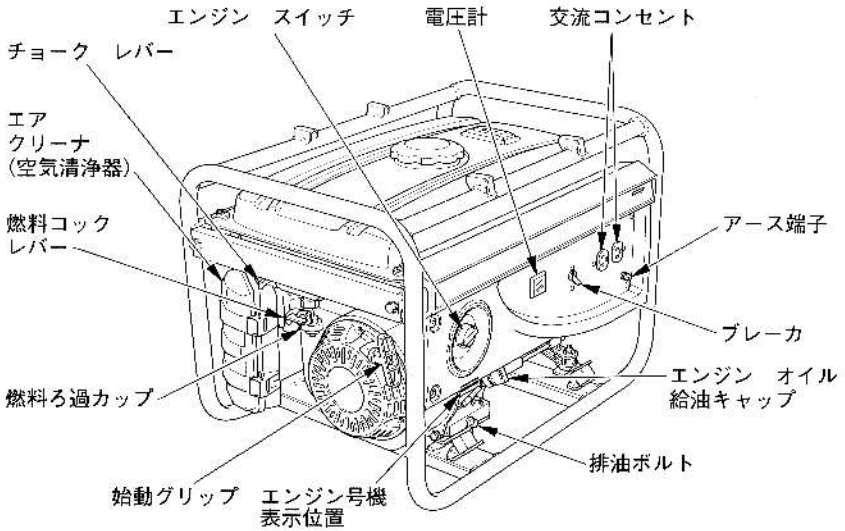
安全ラベル

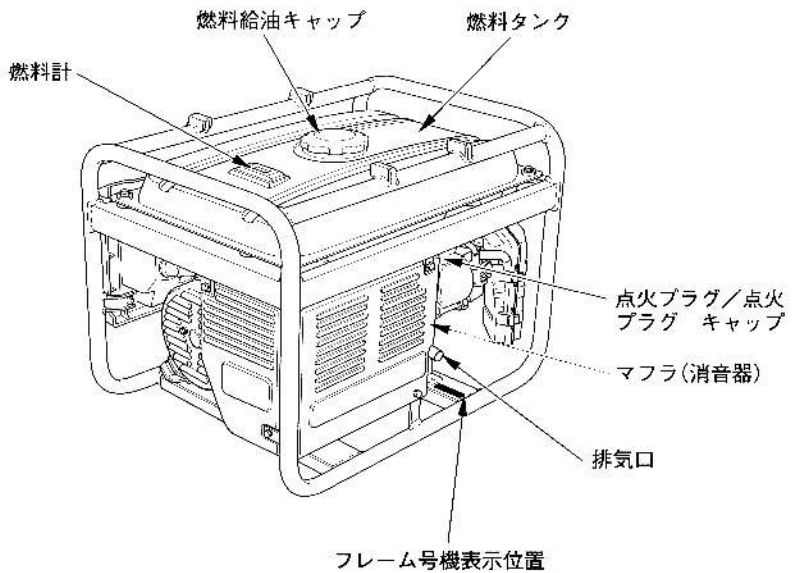
発電機を安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。
安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルは、はっきりと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。





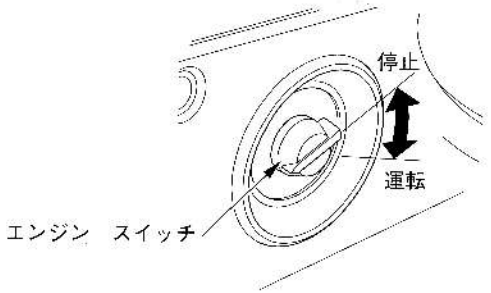
各部の名称と取扱いをおぼえましょう





エンジン　スイッチ

発電機を運転、停止するときに操作します。



オイル　アラート機構

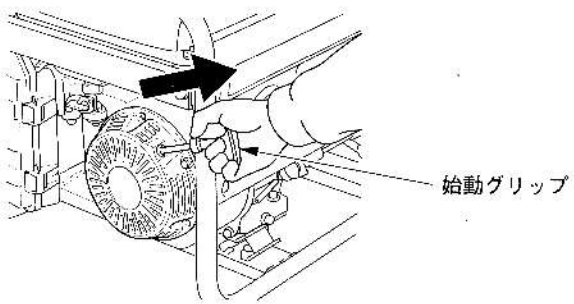
本機のエンジンにはオイル　アラート機構(焼付防止エンジン自動停止装置)が内蔵されています。運転中にエンジン　オイルが不足するとエンジンは自動的に停止します。

運転中にエンジンが停止したときは、エンジン　オイル量を点検し、補給してください。(点検、補給は17頁参照)

オイルが規定量入っていても、本機が傾斜しているとオイル　アラート機構が働き、エンジンが停止することがあります。

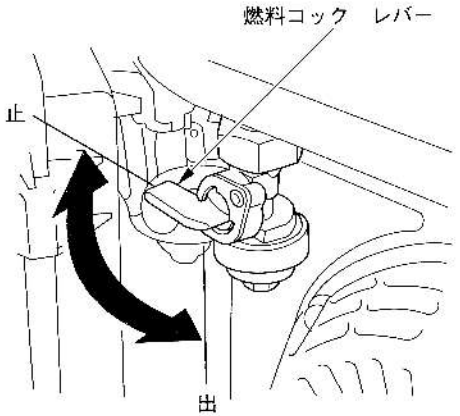
始動グリップ

発電機を始動するときに操作します。



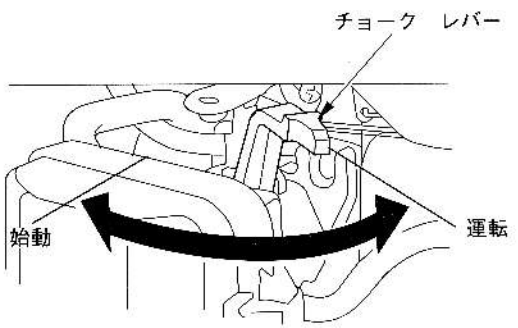
燃料コック　レバー

燃料タンクからキャブレータまでの燃料通路を開閉するときに操作します。操作は確実に“出”“止”の位置に合わせてください。



チョーク　レバー

始動時にエンジンが冷えている場合にチョーク　レバーを“始動”の方向に操作します。



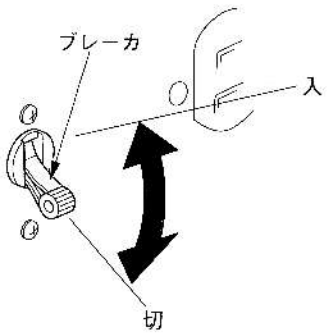
ブレーカ

交流回路を保護します。

発電中に使用器具に異常があった場合や過負荷の時にブレーカが切れ、電気が取出せなくなります。

使用する電気器具はかならず本機の定格出力内で使用してください。主要諸元(42頁)、使用できる範囲(43頁)を参照してください。

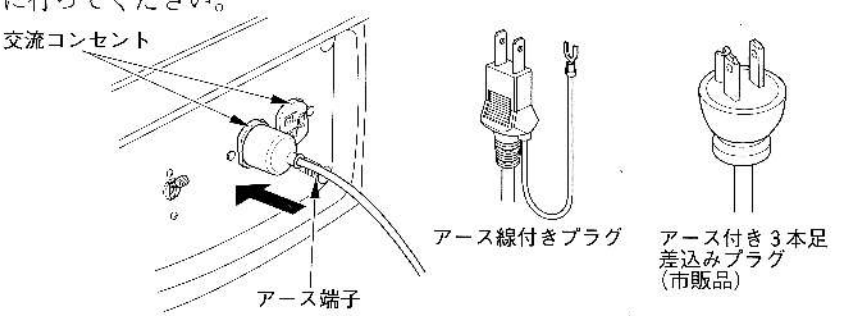
ブレーカが切れた場合はすぐ“入”にしないで接続器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからブレーカを“入”にします。



交流コンセント

交流電気を取出すところです。

コンセントへプラグを差込む場合は、接触不良、抜けのないように確実に行ってください。

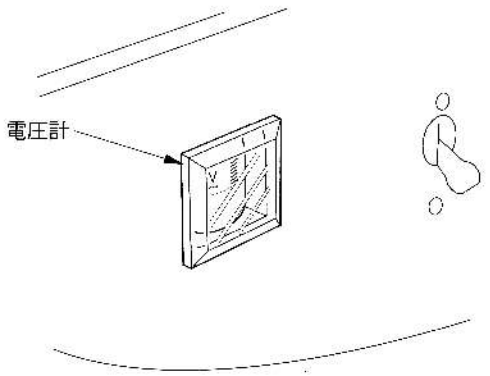


差込みプラグは図のようなアース線付きプラグまたは、アース付き３本足差込みプラグ(市販品)を使用してください。

アース線付きプラグは必ずアース線をアース端子に接続して使用してください。

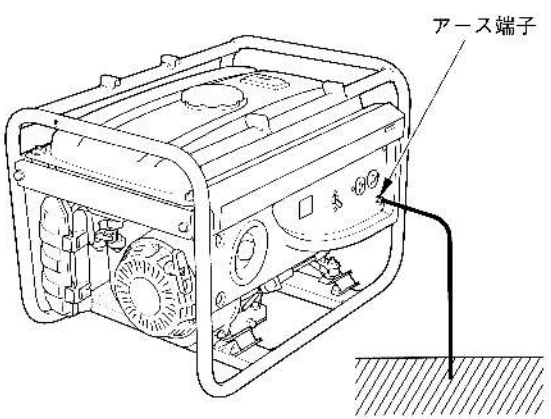
電圧計

電圧計には発電中の電圧が表示されます。(運転中はバックライトが点灯します。)



アース端子

発電機をアースする端子です。
使用器具を大地にアースしたときは、発電機も必ずアースしてください。



運転をする前に点検しましょう

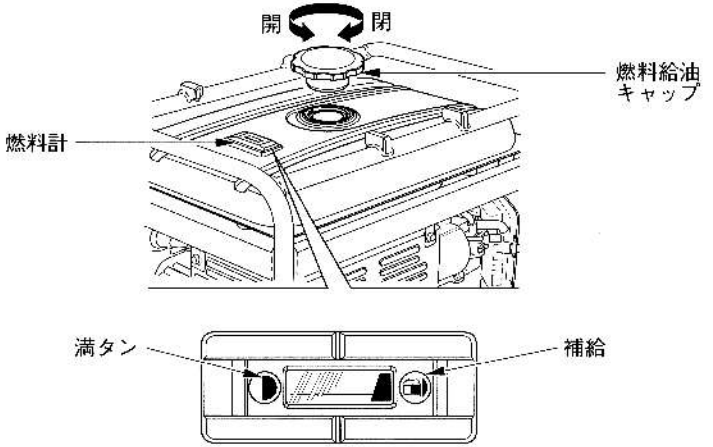
⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外して行ってください。

燃料の点検

点検

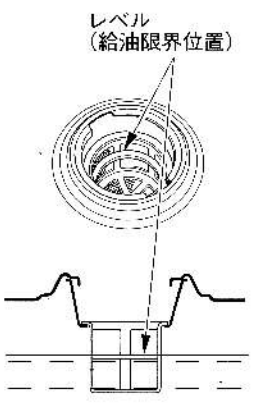
燃料計で燃料の量を点検してください。少ない場合は補給します。



補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)を超えないように燃料を補給します。レベルより上まで補給すると、燃料が漏れることがあります。
- 補給後、キャップを確実に締付けてください。



⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
・エンジンを停止してください。
・火気を近づけないでください。
・換気の良い場所で補給してください。
・身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。
・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは火災と環境に注意して処分してください。
・ガソリンは口元まで入れず所定のレベルを超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

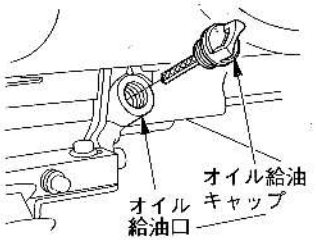
取扱いのポイント

・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
・ガソリンは自然劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジン　オイルの点検

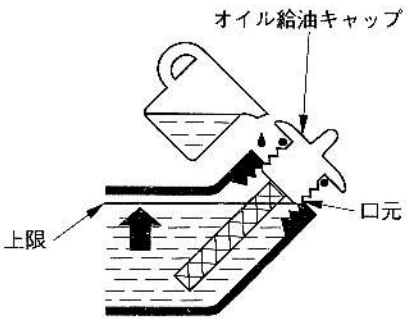
点検

オイル給油キャップを外し、オイル給油口の口元までオイルがあるか点検してください。
汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換方法は28頁参照)

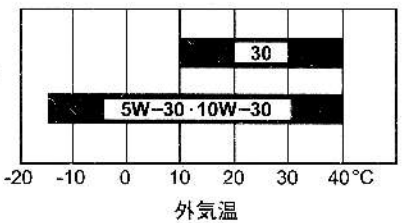


補給

少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。
推奨オイル:
(4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル)
Honda純正　ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。



エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



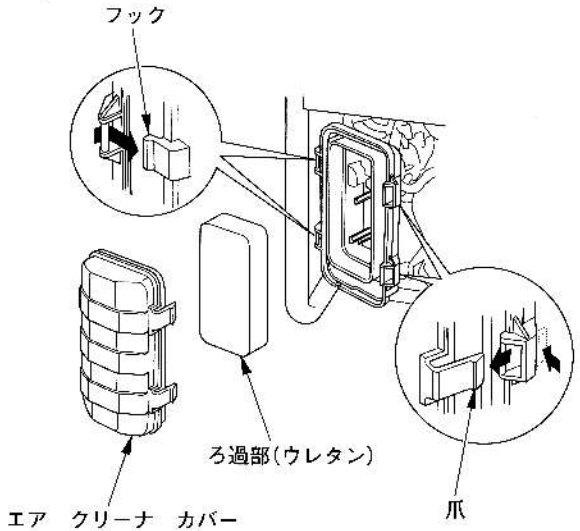
取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

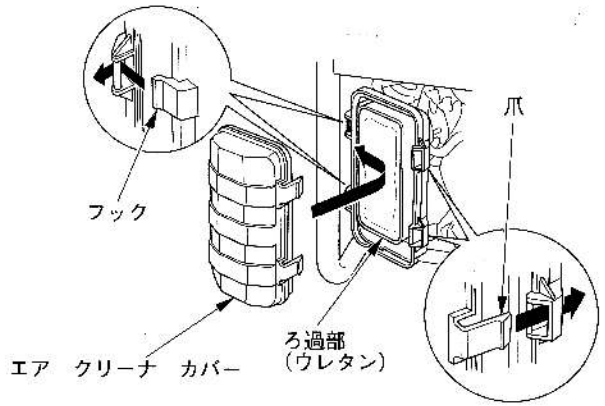
エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

点検

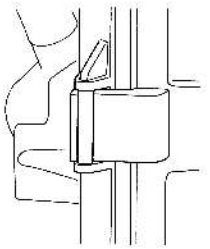
1. エア　クリーナ　カバーを取外します。
   (1)エア　クリーナ　カバーの爪2ケ所を押してロックを解除します。
   (2)エア　クリーナ　カバーを開けてフックを外し、エア　クリーナ　カバーを取外します。
2. ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。
   汚れのひどい場合は、ろ過部(ウレタン)の清掃をします。(清掃方法は30頁参照)



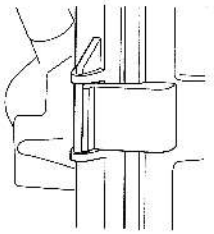
3. エア　クリーナ　カバーを取外しと逆の手順で確実に取付けます。



・フック掛かり"良"



・フック掛かり"不良"

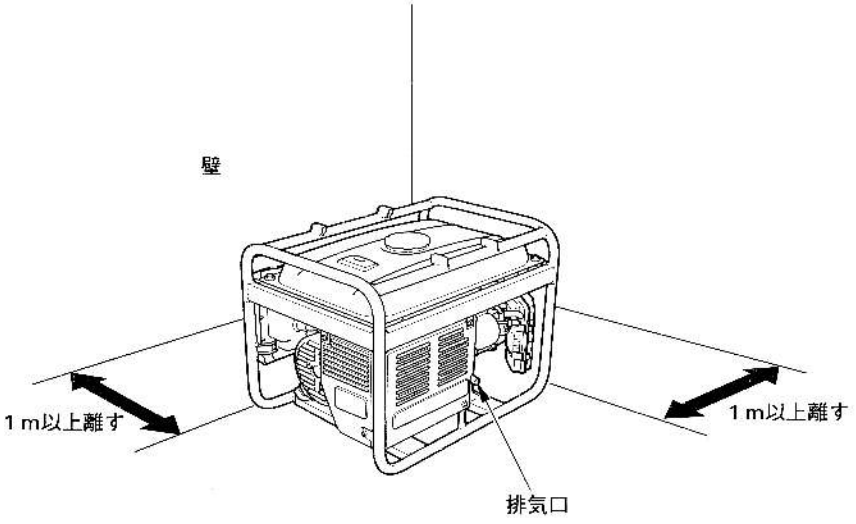


取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン)が変形して取付けられた場合、またカバーやろ過部(ウレタン)が取付けられていない場合は、エンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン)などは確実に取付けてください。

発電機周辺の点検

- ●燃えやすいものや危険物は置いていませんか。
- ●建物および他の設置物から１ｍ以上離れていますか。
- ●風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- ●排気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。
- ●周囲に火の気はないですか。
- ●発電機をダンボール等で囲っていませんか。
- ●使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり軟らかい所では使用しないでください。
  やむをえず使用する場合は、発電機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ●傾斜地では使用しないでください。



発電機のかけかた

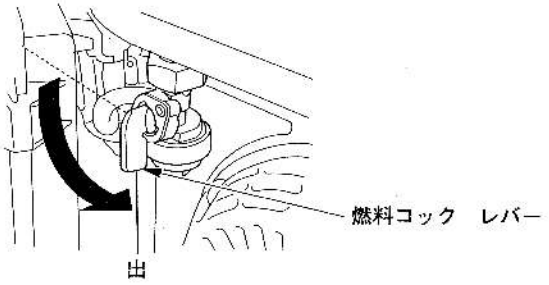
⚠警告

屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こすおそれがあります。

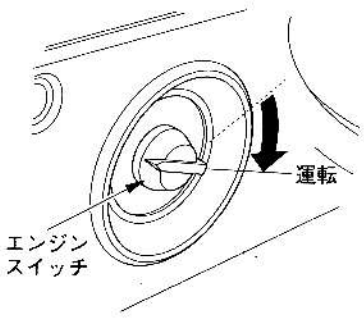
⚠注意

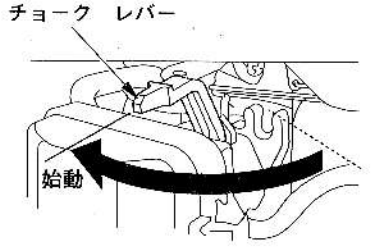
発電機のコンセントから使用器具のプラグが抜いてあり、ブレーカが“切”であることを確認してください。使用器具が接続されたままでブレーカが“入”の状態で発電機を始動すると、使用器具が不意に作動を始め思わぬけがや事故を起こす可能性があります。また始動困難や発電性能に異常をきたすことがあります。

1. 燃料コック　レバーを“出”の位置に合わせます。

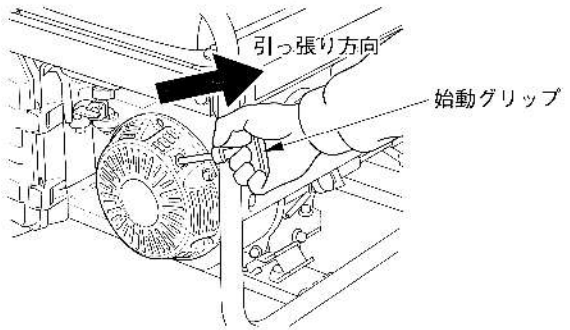


2. エンジン　スイッチを“運転”の位置に合せます。
3. エンジン冷間時は、チョーク　レバーを“始動”の位置に合せます。





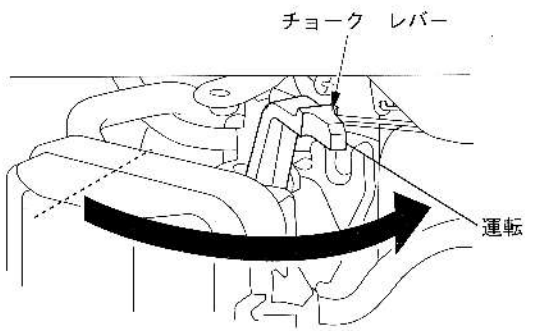
4. 始動グリップを引いて重くなる所をさがし、始動グリップを一度戻してグリップを勢いよく引くとエンジンがかかります。始動グリップは図の矢印方向に引いてください。始動グリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。



取扱いのポイント

- 始動グリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

5. 始動後エンジンの回転が安定したらチョーク　レバーを徐々に戻して"運転"の位置にし暖機運転を行います。



電気の取出しかた

使用器具を接続する前に必ず"安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう"の項目をよくお読みください。

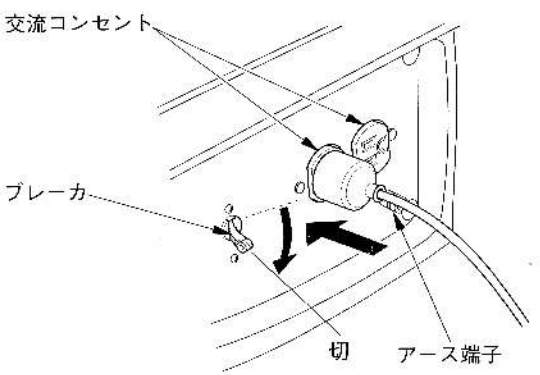
⚠警告

電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。
火災あるいは人身事故、または本機や使用器具が故障する原因となります。

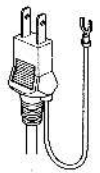
- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

交流

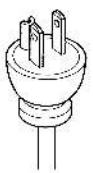
1. ブレーカが"切"であること、使用器具の差込みプラグが抜けていることを確認します。
2. 「発電機のかけかた」に従ってエンジンを始動します。
3. 使用器具のスイッチが切れていることを確認し、コンセントへ使用器具のプラグを確実に差込みます。



- 差込みプラグは図のようなアース線付きプラグまたは、アース付き3本足差込みプラグ(市販品)を使用してください。
  アース線付きプラグは必ずアース線をアース端子に接続して使用してください。



アース線付きプラグ

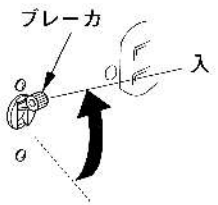


アース付き3本足差込みプラグ(市販品)

⚠注意

接続する使用器具のスイッチが切れていることを確認してください。使用器具のスイッチが入っていると、使用器具が急に作動し、思わぬけがや事故を起こす可能性があります。

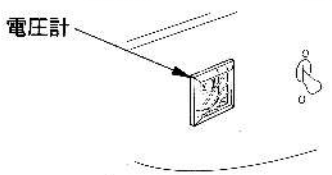
4. ブレーカを"入"の位置に合わせてから使用器具のスイッチを入れます。



取扱いのポイント

- **使用器具によっては過負荷となりブレーカが切れます。使用できる範囲は43頁を参照してください。**
- **ブレーカが切れた場合はすぐに"入"にしないで使用器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎでないか確認してからブレーカを"入"にしてください。**
- **異常に大きな負荷のかかる器具を使用すると、ブレーカが切れずに電圧が低下する特性をもっています。使用器具に悪影響をあたえることもあります。**

- 電圧計で規定電圧が出ているか確認できます。



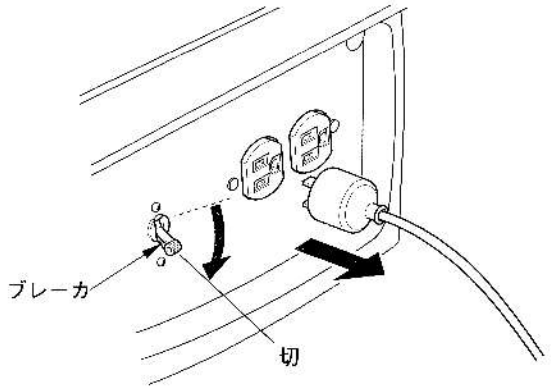
発電機のとめかた

緊急停止の場合

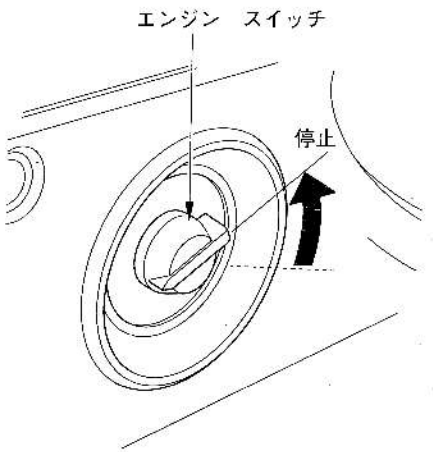
エンジン　スイッチを"停止"の位置にします。

通常の停止

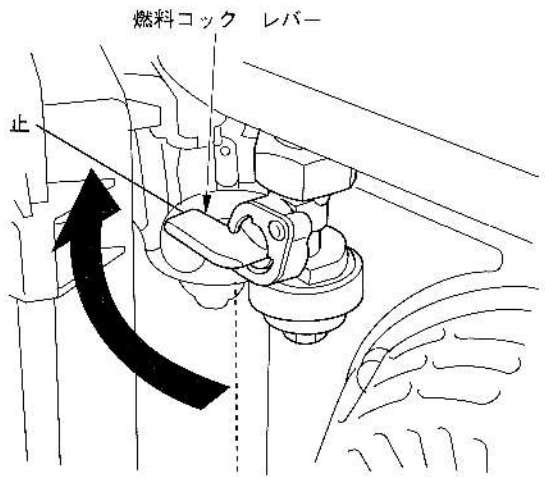
1. 使用器具のスイッチを切ります。
2. ブレーカを"切"の位置にし、差込みプラグを抜きます。



3. エンジン　スイッチを"停止"の位置にします。



4. 燃料コック　レバーを“止”の位置にします。



⚠警告

発電機を保管するときや点検整備時には燃料漏れを防ぐために燃料コック　レバーを“止”の位置に合わせてください。こぼれた燃料に引火することがあります。

定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHonda発電機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検表

点検項目 ＼ 点検時期(3)		作業前点検	1か月目または初回20時間運転日	3か月毎または50時間運転毎	6か月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎
エンジン　オイル	点検	○				
	交換		○		○	
エア　クリーナ	点検	○				
	清掃			○(1)		
燃料ろ過カップ	清掃				○	
点火プラグ	点検－調整				○	
	交換					○
吸入、排気弁のすき間	点検－調整					○(2)
燃焼室	清掃	500時間運転毎(2)(4)				
燃料タンクおよびフィルタ	清掃				○(2)	
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(2)				

(1)ホコリの多いところで使用した場合、エア　クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
(2)販売店またはサービス店で実施していただく項目です。
(3)点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(4)表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告
点検は平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを"停止"の位置にし、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。

⚠注意
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度や、油温が高くなっています。点検・整備はエンジンが冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

エンジン　オイルの交換

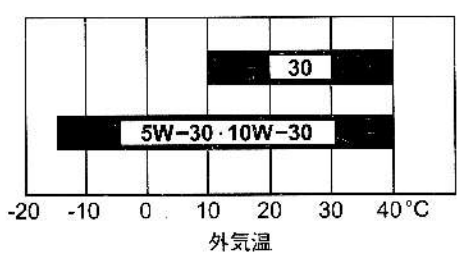
エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》　初回：1か月目または20時間運転目
以後：6か月毎または100時間運転毎

《推奨オイル》（4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル）
Honda純正　ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

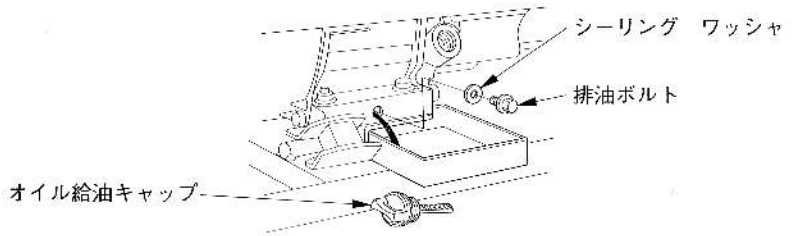
《規定量》　0.58 L

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

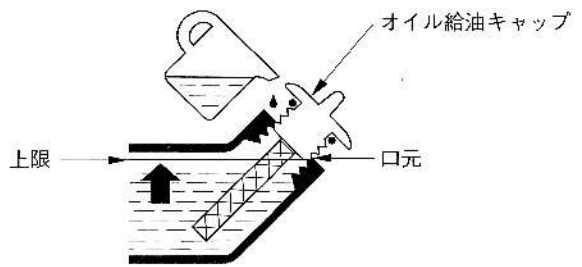


交換のしかた

1. オイル給油キャップを外します。
2. 排油ボルト、シーリング　ワッシャを外して、オイルを抜きます。



3. 排油ボルトをきれいにして、新しいシーリング　ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
4. 新しいエンジン　オイルを口元まで注入します。
5. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



取扱いのポイント

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- 外したシーリング　ワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリング　ワッシャを使用してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

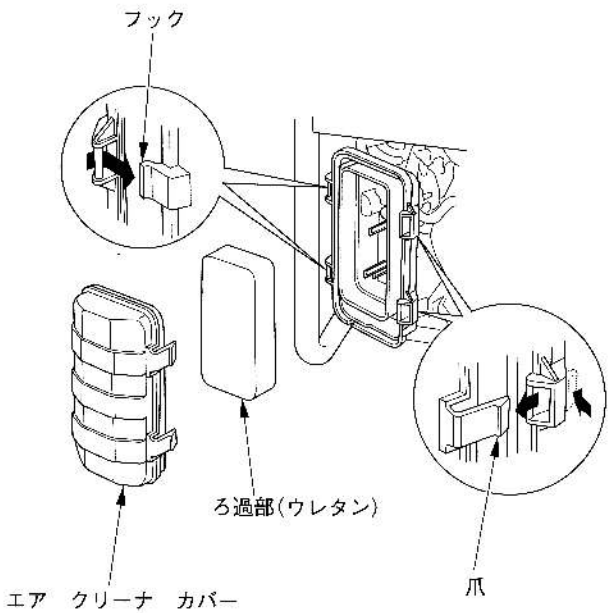
エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア　クリーナが目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》　3か月毎または50時間運転毎
ほこりの多い場所で使用した場合には10時間運転毎または1日1回。

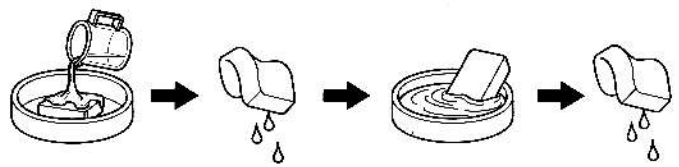
清掃のしかた

1. エア　クリーナ　カバーを取外します。
   (1)エア　クリーナ　カバーの爪2ケ所を押してロックを解除します。
   (2)エア　クリーナ　カバーを開けてフックを外し、エア　クリーナ　カバーを取外します。
2. ろ過部(ウレタン)を取外します。

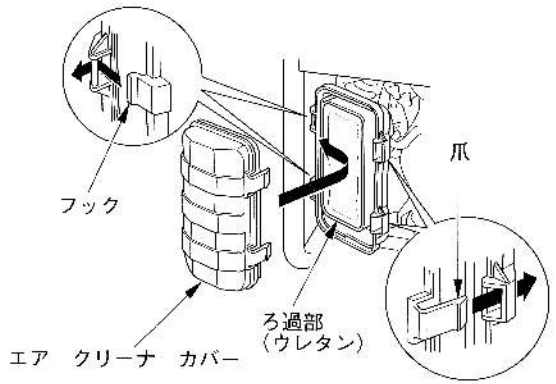


3. ろ過部(ウレタン)を取外し洗い油で洗浄し、固くしぼってからエンジン　オイル(ウルトラU汎用－SAE 10W-30等)に浸し、固くしぼります。

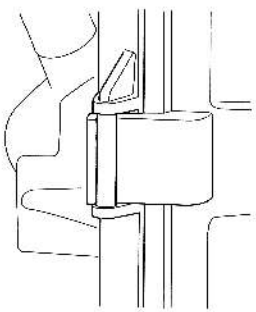
⚠警告
洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。



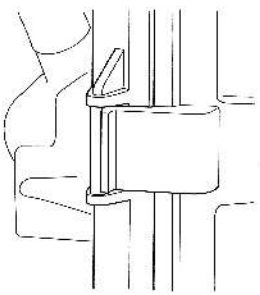
4. ろ過部(ウレタン)とエア　クリーナ　カバーを取外しと逆の手順で確実に取付けます。



・フック掛かり"良"



・フック掛かり"不良"



取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン)が変形して取付けられた場合、またはカバーやろ過部が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。
ウレタンはめくれや、ずれの無いように、確実に取付けてください。

点火プラグの点検・調整・交換

⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラ、点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

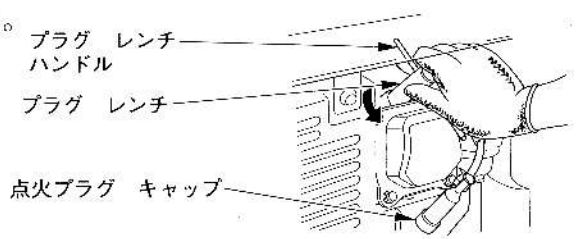
取扱いのポイント

- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検・調整後は点火プラグ　キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因となります。

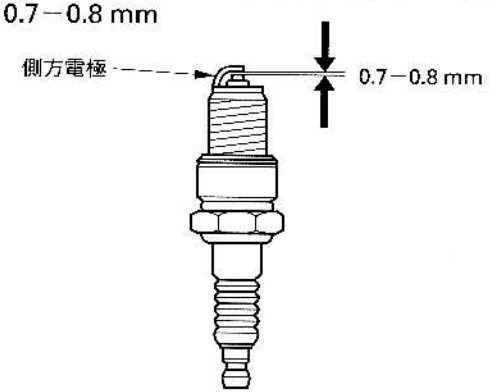
点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗すると完全な火花が飛ばなくなりエンジンの不調の原因となります。
《点検・調整時期》 6か月毎または100時間運転毎
《交換時期》　　1年毎または300時間運転毎
《指定プラグ》　BPR6ES (NGK)
　　W20EPR-U (DENSO)

清掃・調整のしかた

1. 点火プラグ　キャップを点火プラグより外します。
2. プラグ　レンチ、プラグ　レンチ　ハンドルで点火プラグを取外します。



3. 点火プラグを清掃します。
清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。
プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落してください。
4. 側方電極を曲げ、火花すき間を下記寸法に調整します。
火花すき間：0.7－0.8 mm



5. 取付けはまず手で一杯までねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けます。
6. 点火プラグ　キャップを点火プラグに確実に取付けます。

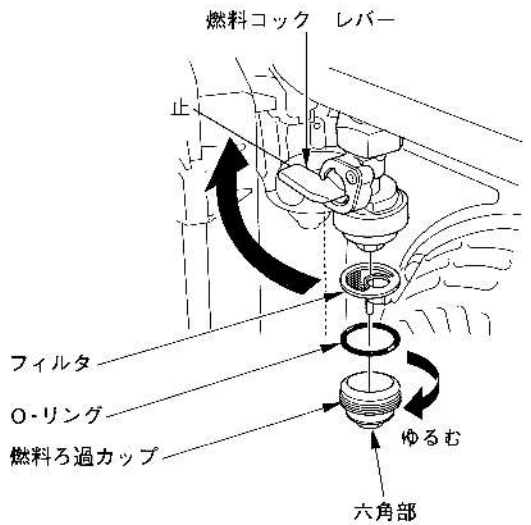
燃料ろ過カップの清掃

⚠警告
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
・火気を近づけないでください。
・換気の良い場所で行ってください。
・ガソリンはこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。定期的に清掃を行ってください。
《清掃時期》　6か月毎または100時間運転毎

清掃のしかた

1. 燃料コック　レバーを"止"にして、燃料ろ過カップを外します。
燃料ろ過カップの六角部を回して取外します。



2. 燃料ろ過カップ、フィルタを洗い油で洗浄します。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

3. 洗浄後、フィルタ、O-リング、燃料ろ過カップを元通りに取付け燃料漏れのないよう確実に六角部を締付けます。
4. 燃料コック　レバーを"出"にし燃料ろ過カップから燃料漏れのないことを確認します。

常時使用しない場合には

非常用電源などの用途で常時使用しない場合は、いつでも使えるように毎月１回試運転を行ってください。燃料やオイルは長時間放置すると自然劣化してエンジンがかかりにくくなり、また故障の原因にもなります。

取扱いのポイント

- ガソリンは自然劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。
- オイルは自然劣化しますので定期点検表(27 頁参照)に従い交換してください。

試運転のしかた

1.「運転をする前に点検しましょう」に従って、燃料、エンジン　オイル、エア　クリーナを点検します。
2.「発電機のかけかた」にしたがってエンジンを始動します。
3. 照明などの負荷をかけて10分間以上運転します。
4. エンジンの調子、オイル、燃料の漏れ、電圧計、エンジン　スイッチの作動を確認します。

運搬する場合には

発電機を車両等で運搬する場合には、次の事を必ず守ってください。
1. 燃料タンク内の燃料を抜き取ります。(39頁参照)
2. 燃料給油キャップを確実に締付けます。
3. 燃料コック　レバーを"止"の位置にします。
4. 発電機が落下、転倒、破損等しないような場所を選んで積載し、ロープ等でしっかり固定します。

⚠警告
- 燃料を入れたまま発電機を車両に積載し運搬しないでください。運搬による振動等で燃料が漏れる場合があります。
- 車室内やトランクに発電機を積んだまま、直射日光の当たるところや高温となる場所に長時間放置しないでください。
車両の内部が高温になり、燃料が気化して引火しやすい状態になり危険です。
- 車のトランクに発電機を積んだまま長時間悪路を走行しないでください。

⚠注意
燃料コック、コントロール　パネルにロープやロープ　フック等を直接かけないでください。

長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しない時は、タンクとキャブレータの燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

⚠注意
エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

1. 発電機各部の清掃を行います。

⚠警告
発電機を水洗いしないでください。
電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。

2. エア　クリーナを清掃します。(30頁参照)
3. 燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜きます。

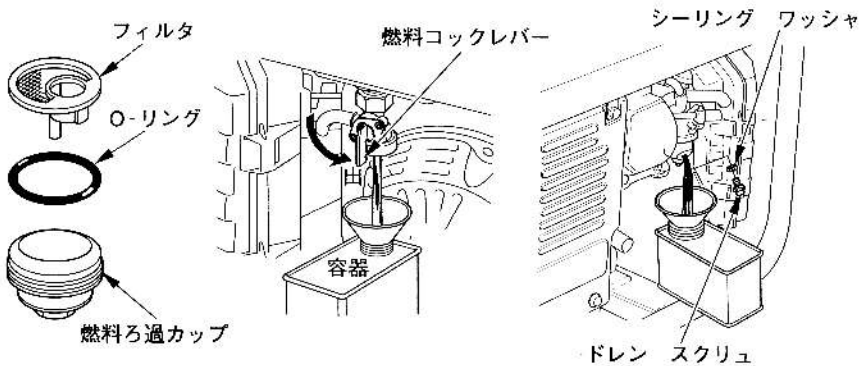
取扱いのポイント
- 燃料は自然に劣化します。必ず抜いてください。
- 次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。

−1. 燃料コック　レバーを"止"にし、燃料ろ過カップを外し、燃料ろ過カップ内の燃料を容器に入れます。
−2. 燃料コック　レバーを"出"にし、燃料タンクの燃料を容器に受けます。
−3. 完全に燃料が抜けたら燃料コック　レバーを"止"にし、フィルタ、燃料ろ過カップを清掃し、取付けます。
−4. キャブレータのドレン　スクリュ、シーリング　ワッシャを外して、キュブレータ内の燃料を容器に受けます。燃料が抜けたら、ドレン　スクリュに新しいシーリング　ワッシャを取付け、ドレンスクリュを確実に締付けます。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

・火気を近づけないでください。
・換気の良い場所で行ってください。
・ガソリンはこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。



4. 始動グリップを引き、重くなったところで止めます。
5. 発電機が冷えていることを確認し、シート等をかけ、風通しのよい湿気の少ない所に保管します。

修理を依頼する前の簡単な点検

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

エンジンが始動しないとき

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?（21頁参照）
2. 燃料はありますか?（15頁参照）
3. エンジン　オイルは規定量ありますか?（17頁参照）
   本機はオイル　アラート機構付きです。エンジン　オイルが不足していたり発電機が傾いていると、始動グリップを引いてもエンジンはかかりません。
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか?（33、34 頁参照）
   - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確めましょう

電気が取出せないとき

1. 使用器具に異常が無いか、また電気の取出し過ぎでないか確認してください。
2. 少し時間をおいてからブレーカを“入”にしてもう一度確かめてください。

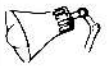
主要諸元

名称 / 項目	EBR2300CX	
タイプ	JKH	NKH
型式	EAHC	
原動機の形式	強制空冷4ストロークOHV単気筒25°傾斜	
総排気量	163 cm³	
内径×行程	68.0 x 45.0 mm	
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
燃料タンク容量	12.0 L	
潤滑油容量	0.58 L	
始動方式	リコイル スタータ	
発電部型式	2極界磁回転型	
機体形式	携帯用パイプ フレーム	
寸法		
全長	597 mm	
全幅	435 mm	
全高	442 mm	
乾燥質量(重量)	45.2 kg	
定格出力 (交流)	2.0 kVA	2.3 kVA
定格周波数	50 Hz	60 Hz
定格電圧 (交流)	100 V	
定格電流 (交流)	20 A	23 A
電圧調整方式	トランジスタ自動電圧制御方式(AVR)	
出力端子	交流：交流アース式コンセント	

この諸元は予告なく変更することがあります。

交流電源の使用できる範囲

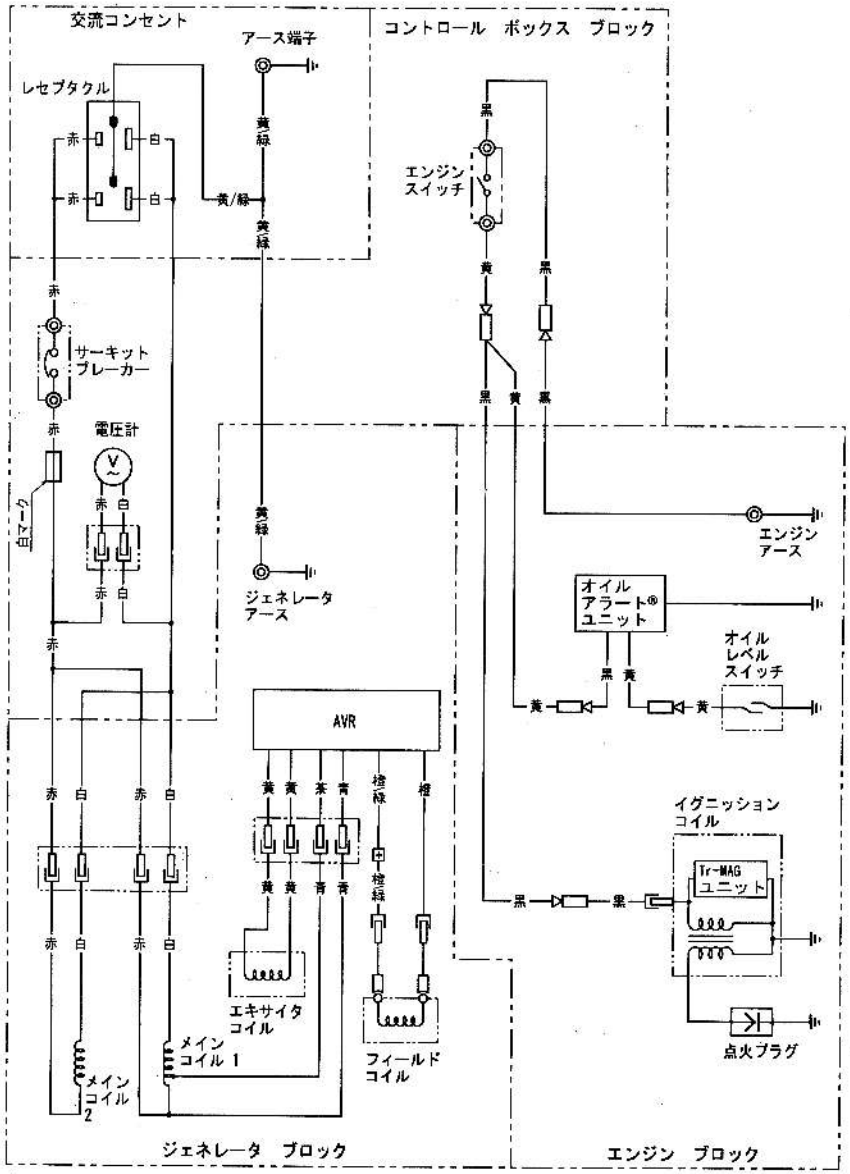
下記の範囲でご使用ください。

 ※1 照明 テレビ、ラジオなど 電熱器	JKHタイプ 100 V−2,000 Wまで NKHタイプ 100 V−2,300 Wまで
※2 モータ	JKHタイプ 400 Wまで NKHタイプ 750 Wまで
	モータは起動電流の多い製品、または種類によって使用できない場合があります。 詳しくは、お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

※1：安定器の付いた放電タイプのランプ(水銀灯、メタルハライドランプ等)を消灯した場合は、ランプが冷えるまで待ってから再点灯してください。発電機や使用器具に不具合が発生するおそれがあります。

※2：使用する負荷によっては発電機とのマッチング上、不具合が発生することがあります。お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

配線図


交流コンセント
アース端子
レセプタクル
赤
白
黄緑
黄/緑
サーキット
ブレーカー
電圧計
白マーク
ジェネレータ
アース
コントロール ボックス ブロック
エンジン
スイッチ
黒
黄
エンジン
アース
オイル
アラート®
ユニット
オイル
レベル
スイッチ
AVR
橙
緑
茶
青
イグニッション
コイル
Tr-MAG
ユニット
エキサイタ
コイル
メイン
コイル 1
メイン
コイル
2
フィールド
コイル
点火プラグ
ジェネレータ ブロック
エンジン ブロック